

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900131		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム 船橋海神		
所在地	千葉県船橋市海神5-29-20		
自己評価作成日	平成31年2月12日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://mcs-ainoie.com/gh228.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	平成31年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様本来の人生歴や今現在の思いを実現できるように、「散歩に行きたい」「お風呂に入りたい」「買い物に行きたい」など、その時々気持ちを大切に実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所と地域とのつきあいにおいては、昨夏、同エリアのMCS4事業所合同の夏祭りを開催した。当事業所では近隣の民家にチラシを配布するなどした結果、100名ほどの人が集まり、子供達がフランクフルトを頬張る姿も見られ、住民との距離が狭まっている。
 馴染みの人や場との関係継続の支援においては、友人の来訪や年賀状の返信等、馴染みの関係を支援するほか、ディズニーランドやラーメン店、スイミングスクール等、本人が行きたいという所があれば家族と相談の上、職員が付き添い、個々人の多様な希望に応えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の夕礼時の申し送りの際や会議で運営理念の唱和を行い、把握理解しケアの統一化に努めています。	正規10名、非正規5名、合計15名の職員を雇用している。職員数は十分ではないが全員が3年以上定着し、事業所の理念は年度ごとのホーム長の方針とともにリーダー及び全職員が共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏には地域の方々をお招きして夏祭りを行う。近くの幼稚園と今後交流をとるよう調整中。スーパーでの買い物。	昨夏、同エリアのMCS4事業所合同の夏祭りを開催した。当事業所では近隣の民家にチラシを配布するなどした結果、100名ほどの人が集まり、子供達がフランクフルトを頬張る姿も見られ、住民との距離が狭まっている。	夏祭りは対象地域を広げたい意向。また、目の前の幼稚園との交流は、ハロウィンのお菓子を用意しておく約束がなされ、散歩で立ち寄る等も意図しているが、前進を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	千葉周辺の同法人の事業所との協力体制のもと、地域の方へ向けて、認知症理解をして頂けるよう勉強会を開催しています。その中で、支援方法や事例を通して認知症の周辺症状が緩和した内容を発表しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度ご家族を交えて行い、その都度レクリエーションを行いご家族様にも参加して頂く。	偶数月の休日に家族が参加し、利用者の近況・運営状況の報告に併せ、クリスマスやハロウィン等利用者と家族が共に楽しめるレクリエーションをかねて開催している。現在は市や地域の関係者の参加は得られていない。	開催日が休日のため市や地域住民等の出席が得られ難いと思いますが、運営推進会議は地域の理解と支援を得る貴重な機会です。市や自治会への働きかけを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	船橋市役所指導監査課に密に連絡を取り指導助言を頂いている。	利用者が転倒するなどの事故が生じた場合、事故の大小に拘わらず、速やかに市へ出向き発生状況の説明や対策等について相談し、指導や助言を得ている。また、地域包括支援Cとは入居の相談等で連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会や、不適切なケアチェックシートの記入を行っている。	2ヶ月ごとに「虐待・不適切なケアチェックシート」を利用し、ホーム長、エリアM、部長がフロア等でケアの状況をチェックしている。懸念されるケアがあればヒアリングの上、事実を確認し必要があれば改善する。	ホーム長は言葉のロックについて絶えず注意を怠らないよう促している。職員からは事例を挙げ対応方法等について、事前の相談がある。好ましいので継続・前進を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・不適切なケアチェックシートの実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括センターとの話し合いで、ご家族様、ご利用者様の想いの実現について話し合っている。又成年後見者制度の活用も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ホーム保管用とご家族様用を作成し、説明・同意・署名・捺印を頂いている。又、ご質問にもお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話にて、管理者のみならず、職員からも日頃の様子をお伝えしています。レクリエーションにてご家族様もご協力いただいております。	レクリエーションの開催時に家族とのコミュニケーションを図っている。また家族の要望はケアマネかホーム長が訊き対応することとしている。利用者調査分析結果からは家族は事業所の運営に満足している様子が窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談の実施。毎月全体会議、ユニット会議行う。	ユニット会議や全体会議を通じて職員の意見を聞き、必要に応じては個人面談により訊く、あるいはSNSでの相談に応じ、これらを運営に反映している。なお、ホーム長も現場に入っていて職員と認識を共有できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と定期的な面談、又、日頃から話し合いを行い、悩みを聴く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外を問わず、本人に合って研修を実施したり紹介し行ってもらうように進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域交流活動や、グループホーム協議会に参加し、情報共有を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会議を通して職員にアセスメント、ケアプランに目を通して頂き、現状を把握し各階のユニット会議にて入居者様の関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様の要望をお聞きし、その後も随時、連絡を取り合い状況報告やケアの方向性を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1対1での会話をを行い、話をよく聴き、必要な支援を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のご要望を取り入れた中に、ご入居者様の残存機能を把握した上で、日常生活や共同生活の場において、他入居者様同士の懸け橋となるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族、施設、地域が一緒になり絆を保てるように悩みを共に考える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人一人に合った個別レクリエーションや馴染みの場所に行ったり、今までの関係を崩さない様に、ホームに直接、又は電話で連絡を取り合える環境が出来ている。	友人の来訪や年賀状の返信等、馴染みの関係を支援するほか、ディズニーランドやラーメン店、スイミングスクール等、本人が行きたいという所があれば家族と相談の上、職員が付き添い、個々人の多様な希望に応えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する事の無いように職員がレクリエーションや会話の懸け橋となり共同生活での空間を共有し合えるような支援に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、お家族の許可が下りている方には、別施設の訪問し面会を行い、ご様子をお伺いさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット会議にて個々の希望や意向を再確認し個別でのケアに努めている。又、ご本人やご家族の思いの実現を本人本位に検討している。	入所後、家族は早く慣れて欲しいと思う反面、利用者本人はこれまでと変わらず、話を聞くだけの方が多く、なかなか自分の思いや意向をはっきりと語ることは難しい様である。1ヶ月から3ヶ月程経過すれば、ようやく気持ちの変化が表れ、ユニット会議で検討された後、家族にそれが伝えられ、ケアプランの修正が行われることになる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様に今までの生活歴やご様子をお聞きし一人ひとりの居場所やその人らしさを追求している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人に合わせた生活リズムを把握して、その日の感情や身体能力、又本人希望に合わせた過ごし方の提案をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、医療機関と話し合い、その方に合った介護計画を作成している。職員が常に目を通せる介護記録と一緒にする。	介護計画は3カ月に1回見直しを行うが、そもそも介護計画に沿ったケアを行う為には、職員が利用者のそれを理解しておくことが必須条件となることから、介護記録を書く際には、介護計画が参照できる環境作りを行い、介護記録の充実化を図っている。	ユニットメンバーの情報共有にはSNSによる"LINE"のグループ機能が活用されているようであるが、個人情報扱う事業所として、情報漏洩の可能性が高いこの方法は止めて別の手段を検討される事が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、勤務交替時の夕礼にて入居者様の状況や、報告、ケア内容にて情報共有している。出勤者は勤務交替に関わらず情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方、一人一人に合わせて長時間の散歩や美容など個々のニーズに合わせて支援サービスを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物を近くのスーパーに行き、今までの暮らしを継続しつつ地域との共存に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	城東在宅クリニックの往診医と些細なことでも連絡をとりあっている。その日の受診者でなくても診て頂くなど臨機応変に対応している。	月2回の提携医による往診で健康管理を行っているが、入所前からのかかりつけ医の診察については必要に応じて個人依頼で往診に来て頂くケースもある。ドクターとの情報交換は、診察報告書を受け取り、次の診察までに気になるところを記入して事前に提出する方法で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居様様の異変に関しては些細なことでも情報共有を行っており、早期発見や再発防止に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	1週間に一回以上の面会を行い、現状の把握や病院から情報を共有して頂き早期退院、その後の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化にかかる指針を家族へ説明し、署名・捺印を頂き、今後の方向性を話し合っている。又、状況や段階に応じて医療従事者、家族を交えて話し合いが出来るように努めている。	看取り対応はこの1年間で4件程経験しているが、家族の意向に沿った対応を行うことを基本としている。安心納得の最期を迎えられる様、随時意思確認を行うが、行き成りターミナルケアとはならず、段階的な話が必要となることが多い。事業所内での医療的ケアへの対応については、資格者が1名いるが、今のところお断りしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニット毎に緊急対応マニュアルを設置し、常に高い意思を保つようにしている。又、定期的に緊急時の対応を研修として取り入れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練、昼、夜の別々の訓練を実施。年に1回以上の消防署立ち合いにて実施し、記録、反省等を行い、運営推進会議にて報告。	事業所では年2回の避難訓練を行っているが、地域の小・中学校に避難誘導のお手伝いを依頼している。設備についても定期点検を行い、非常食は最低3日分用意をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に職員にバラツキが無いように個人に合わせて対応しているが、ご利用者と職員の信頼関係を含めて、尊重し、声掛けを行っている。	プライバシーの確保は利用者一人ひとりの尊厳と権利を守る為の基本であることから、これを無視したケアを見かけたときは、職員間で注意しあうことを励行している。馴れ合いを超えて友達のようになっている状況等は特に気を付けて注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を表せるように職員は決める様に話をもちかけない。意向を表せるような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴を含め、その人らしいを実現できるように入浴や日々の過ごし方に添えるよう支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で衣類を選べる方はご本人で決めて頂く。又、季節などに合わせて職員からも提案と言う形でおしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、食器洗い、食器拭きなど、個々の身体機能に合わせて職員と一緒にになり支援している。	食事の準備や後片付けは、現在進んでやって頂ける方は1名だけで、基本的には状況を見ながら職員が都度指示を出して対応してもらっている。又、食材の買い出しについては近くのスーパーまで徒歩で買い出しに付き合ってくれる方もいる。時にはみんなでメニューを決めて自分たちで全て調理まで行うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量が一日を通して量が一目で分かるようにしている。又、食事形態や水分形態も、その方の現状に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っていただいている。ご利用者によっては訪問歯科が口腔チェック、清掃実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを確認し、トイレ誘導を実施。又、パッド、リハパン使用者も用途目的に使用している。	日中はオムツの利用者は無く、排泄記録表を職員間で共有し声掛けとトイレ誘導を行っている。それでも失禁される時もあり、周りに配慮しながら対処する様心掛けています。夜間はリハビリパンツやパッドを併用したりしながら、1時間毎の見回りを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせて散歩や体操を行っている。又、下剤に関しても一人ひとりに合わせたタイミングや量を設定している。又、医療とも連携を取り内服薬にて調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全面を考慮しある程度の時間を決めても、今までの生活歴に合わせた入浴が出来るように職員で見守り方法やリスクについて話し合い、希望に添えるように環境を整えている。	週2回以上希望の時間に入浴出来る様対応している。全介助者は4名で、自立者は3名。今はあまりないが、寝る前に入りたい方が居れば対応しており、現在の所入浴介助における人手不足は無い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅で使用していた布団を持ってきていただいたり、冷暖房の調節を含め、快適に休息できる環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を各フロアに設置し常に意識し確認できるようにしている。又、薬剤師に相談できるような環境づくりに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の要望や身体機能に合わせ、身体能力に難しいと判断した場合でも、楽しめる様なレクリエーションの提供を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員配置もあるが、計画書に起こし、個々の希望又は、個別レクとして行えるように工夫している。	日常的な散歩は行っているが、さすがにこの寒い季節は難しく、買い物の際、同行して頂く程度である。花見の季節になると行田公園まで車で出かける。又、外食レクでは新船橋イオンモールまでおいしいものを食べに行ったりする。現在車椅子利用者が6名あり、全員で出かけることは困難である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の買い物にて支払いが可能な方は、買い物の際には金銭の支払いをご本人にして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の電話対応が出来る時間帯ウィ把握して、ご本人には自由に電話や手紙のやり取りを行って頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下はやわらかい色を使用しておりその場所に合った照明になっている。廊下には飾りつけなどをしてある。	リビングにおいては、季節感を出すための飾りつけを利用者と一緒に行ったり、思い出の写真を飾ったりしている。又、外に出ると菜園があるので、ボランティアの方々の協力も得て、お花や野菜のを栽培している。玄関には職員の写真と名前を貼り出し、御家族にも安心して頂ける様配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に席の場所を決めている訳ではありませんが、ご利用者自身で居場所を決めている。又、レクリエーションの際は、席にかけて居なく、職員より全体での居場所などを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れたものや馴染みの物を居室に置き、使用し、居心地の良い環境づくりに努めている。	居室は全て洋室となっており、馴染みの物に関しては何でも持ち込みは可としているが、基本的に部屋においてあるものに関しては管理責任をご自身にお願いしている。貴重品については申し出があれば事務所でお預かりし、居心地よくいられる環境作りを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がフロア環境を常に意識し歩行の妨げにならない様な物品配置に努めている。		